

在日朝鮮学校との共同研究について

——千葉ウリハッキョでの日朝教育研究会の授業研究——

Joint research about Korean school in Japan
——the Japan and Korea Study Group
research lesson study in Chiba Urihakkyo

山寄早苗
(Sanae Yamazaki)

要旨：

千葉ウリハッキョにおける日朝教育研究会に参加して授業交流を行った。初めは、日本で行っている授業を紹介しようとしたが、回を重ねるにつれ一緒に教材研究をして共同でよりよい授業を創ることができるようになってきた。

8年間の授業交流を通してウリハッキョの存在意義が理解できるようになり、日本の学校の学び方を伝えるだけでなく、ウリハッキョの先生方と子どもたちから朝鮮のことを学びたいという気持ちに変容してきた。それが日本における在日コリアンとの交流になり、授業以外の面でもウリハッキョを応援していくきっかけとなった。

キーワード：在日朝鮮学校（ウリハッキョ）、日朝教育研究会、アイヌ民族、自然観察、トルチャンチ

I. 研究の背景及び目的

1. ウリハッキョとの出会い

2015年、千葉朝鮮初中級学校（以下千葉ウリハッキョ 注1）で行われた第2回日朝教育研究会に参加した。初めて千葉ウリハッキョで授業する機会を得たのだが、筆者自身、ウリハッキョについてほとんど知識がなく、朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）の拉致問題などを考えるとやるべきことかどうなのか複雑な気持ちで臨んだ。

本研究では、千葉ウリハッキョと関わって8年間、どのような教育研究交流を行ってきたのか、そして在日コリアンやウリハッキョに対する認識がどのように変わったのか、その振り返りをまとめることを目的とする。

2015年10月の日曜日の朝、粘土づくりの材料や道具を詰めたキャリアを転がしながら学校に入ると、太鼓や独唱のリハーサルの音が大きく溢れ出していた。歓迎の発表練習だったのだが、それは未知なる学校に入るのに多少の恐怖感を感じてしまうものだった。

日朝教育交流会はまだ2回目で、1～3校時だけの授業だったが、授業者には、近隣の小学校の教頭や元教師、静岡や愛知の大学教員、高校教師、また教師ではない方々もいて、バラエティーに富んだメンバーによる興味深いテーマがたくさんあった。小中合わせて50名以下の小さな学校の各クラスにたった1日とはいえ、たくさんの先生が集まって行う刺激のあ

る授業を体験できるのは良いことだと思った。保護者の学習参観も兼ねていたので校内が賑やかだった。

1校時は、ウリハッキョの先生方が授業展開され、筆者は1年生の国語、2年生の算数などの授業を参観した。時折日本語が混じる程度で、ほとんどがウリマル（私たちの言葉を意味する朝鮮語）で行われていた。先生方は若い方が多く、女性は全員民族衣装のチマチョゴリを着ていた。普段から体育の時間など以外は、この服で生活していると聞いた。思ったよりも動きやすいのだろうか。子どもたちは、白シャツと半ズボン、スカートの制服である。学年ごとの授業は少人数で先生方が丁寧に教え、子どもたちが挙手して一生懸命発表をしていた。

2校時は、2,3年生合同で総合の授業「オーストラリアの文化を知ろう」を参観した。日本在住オーストラリア人のSさんが、写真をたくさん見せながら流ちょうな日本語で語っていた。夫が韓国人であることから「在日朝鮮人の教育」をテーマに大学院の博士課程で研究している方で、7世という紹介が在日コリアンの方々と共通していた。

そして、3校時、筆者の初めての授業は、低学年の図工で粘土を扱うことにした。担当の先生方と相談して今まで経験していない手づくりの「おがくず粘土」を行うことになった。2年生5名と3年生6名の計11名の生徒がとても楽しみにしているということを伺い、私も楽しみであった。

おがくず粘土は、おがくずと小麦粉と水で作るのだが、実は、小麦粉の成分グルテンの多少により粘性に違いが出てくる。つまり、薄力粉より強力粉の方がよく固まるということを実感できるのだ。これを実感することをねらいとしたのだが、なんと小麦粉の袋の模様を勘違いして両方とも強力粉を持参してしまった。お蔭で、全員おがくず粘土が作れたのだが、薄力粉のぱさぱさ粘土を体感させることができなかった。

昼食後は、学年のまとまりで話し合いをもち、授業者と教員との懇談が弾んだ。授業を参観した材木関係の保護者が、おがくずが手に入るので家でもできそうだと話していたという。また次回の授業についても担任と一緒に考えることができた。公立小学校でやっている教科内容や教材研究をウリハッキョの方々と共有できたとすばらしいことである。

今回の訪問で一番心に残ったのは、日本と変わらない子どもたちの元気な様子であった。校長先生の話が心に沁みた。朝鮮学校といっても子どもたちの8割は韓国籍であるというのが驚きだった。ひとくちに朝鮮民族といっても出身地や日本人との結婚などで様々な家族の形態があるようだった。在日コリアンの人々が作った自国の学校に通わせる訳は、朝鮮の文化や伝統をしっかりと継承し、日本社会の中で誇りを持って堂々と生きてほしいということである。そのため、学生数が激減し、教員は給料も十分でない大変な中での教育活動を続けている。ウリハッキョを応援する会ができ、支援しているのもうなずけた。

2. 日朝教育研究会とは

千葉ウリハッキョを支援する人々は以前からいたが、彼らは「千葉朝鮮学校を支える県民ネットワーク（千葉ハッキョの会）」（注2）を立ち上げ、県や市、国などへウリハッキョを認めて補助金を支給するように交渉する活動を行っている。また学校の諸行事に参加して子どもたちを励ましたり、保護者会と共同で運営資金を得るバザーを開いたり、校内の修理なども率先して手伝っていたりする。

児童数が激減し存続が難しくなっている千葉ウリハッキョの状況を何とかしたいという思いから「千葉ハッキョの会」が主宰者として2014年に「日朝教育研究会」を発足させた。

在日コリアンの学校は、戦後帰国せず日本に残って生活することを選択した人々が、日本に同化していく子どもたちに朝鮮語を忘れないようにさせたいという思いで作った国語講習所が基になっている。そして民族の伝統文化も教えたいという願いからやがてできた初中級学校や高級学校は、朝鮮大学校まで系統的な学校カリキュラムに基づいて教育が行われている。全国にできた学校は、一校の規模が最盛期には300人から400人と大きく発展していたが、1970年代から80年代に行われた朝鮮による日本人拉致の問題が発覚して以降、学校規模が縮小し、統廃合され、財政的にも存続が困難な状況が続いている。千葉県に1校だけのウリハッキョも児童数が小中合わせても50人前後となっている。それでも存続を願う保護者の必死の支援で経営がなされている現状である。

千葉県日朝教育研究会は、ウリハッキョの教育が学校のカリキュラムに基づいて行われていることを広く知ってもらうことと、日本人に様々な教育を公開してもらい、子どもたちが民族学校だけの教育にとどまらず、いろいろな刺激を受けて共に日本に暮らす人間として広く学ぶことを目的として行われている。この研究会に参加した人たちは、毎年授業を継続して行うだけでなく日常的な交流も行うようになってきている。

3. 筆者が行った千葉ウリハッキョでの授業の一覧（太字は、実践例として紹介）

表1

※2019、2020年度はコロナ禍のため中止

年度	回	学 年	授 業 内 容	教 科
2015	2	1・2年合同	おがくず粘土	図画工作
2016	3	2・3年合同	アイヌってなあに	日本語
2017	4	1・2年合同	のはらたんけんたい	日本語・生活
2018	5	2・3年合同	オリンピックニュースを書こう	日本語
2018	5	1・2年合同	食べられるどんぐり	生活
2021	6	1・2年合同	秋の自然たんけんたい	生活・日本語
2022	7	1・2・3年合同	ムロンムロクチャララーすくすく育て	日本語・生活
2023	8	1・2年合同	ムロンムロクチャララーすくすく育て	日本語・生活

II. 授業実践の具体例から

筆者が行った実践の中から4つの授業例と筆者の認識の変化について述べる。

1. 異文化を紹介し交流することで子どもたちの多文化交流を広げた一例

—2016年度第3回千葉県日朝教育研究会 異文化交流の授業「アイヌってなあに」—

(1) 授業の構想について

私は大学の「生活」の授業の中でアイヌ民族の歴史や生活文化を取り上げている。

ウリハッキョの民族学校という特色から、そのメリットを生かし、いろいろな異文化との交流を低学年の段階から授業に組み込めたらよいと考え、アイヌ文化を選んだ。

私は小学校の授業の中でもアイヌについていろいろな学び方が展開できるのではないかと考えているので、低学年の子どもたちがわかるような平易な方法で学べるように、ウリハッキョの先生方と相談しながら授業を創った。

(2) 授業のねらい

日本にもいろいろな人々が暮らしていることを知り、その生活や文化に触れることにより、ウリハッキョで学ぶ子どもたちとアイヌ民族との交流を図る。

(3) 学年の発達段階を考えた二つの授業の計画（45分×2）

1) 「アイヌってなあに」その1 初級2・3年生対象（1時限）国語・音楽・図工・生活

- ①アイヌ文化アドバイザーKさんの紹介
- ②アイヌ語で「こんにちは」のあいさつ言葉「イランカラプテ」
- ③いっしょに歌おう・追いかけて歌・体の名前を覚える歌・アイヌ語の「サザエさん」
- ④アイヌ模様づくり 長い画用紙に貼ってアイヌのはちまきをつくろう
- ⑤はちまきをしめて輪になって踊ろう ⑥感想をお話ししよう

2) 「アイヌってなあに」その2 初級3年生対象（2時限）国語・国際理解教育の合科

- ①「アイヌってなあに」の自作冊子でアイヌの衣食住についての簡単な学習
- ②Kさんに聞きたいことを質問しよう ③楽器ムックリの演奏を聴こう
- ④アイヌ民族について思ったことを自作冊子のプリントに書き込もう
- ⑤あいさつごっこ 2人組（アイヌ役と朝鮮役）に分かれて話し合う

(4) 授業の成果と課題

まず低学年の子どもたちが親しみやすくアイヌ民族と触れ合えるように平易なアイヌ語のあいさつや日本語のよく知られているアニメ「サザエさん」のアイヌ語版を歌った。

また簡単なアイヌ模様の切り抜き工作をした。ハサミをまだ上手に使えない子どもにとっては、繰り返し模様を切り取ることは難しい面があった。さらにムックリという口琴の楽器を吹き鳴らすことは一朝一夕にはできず、なかなか音が出せない状態だった。楽しかったけれど難しい面もあった授業だった。

しかし1か月後に文化公演で再会した子どもたちは、すぐ「サザエさん」の歌を一緒にすらすらと歌えた。そしてムックリが上手になったと自信を持って言ってくれた。それは、とても教育的な体験だった。異文化交流は、すぐに上手に出来なくても練習して楽しみながら上達していき、自信も持つという教育的な効果を教えてくれたからだ。

またこの授業は、アイヌ文化アドバイザーのKさんにとっても良い経験になったようだった。文字を持たないアイヌ民族出身のKさんは、子どもたちがウリマル（朝鮮語の読み書き）を学んでいる様子を見てうらやましいと感想を語った。Kさんの母の時代にはアイヌの子どもたちは、明治期にアイヌ学校（4年制）に通わされ、同化政策のため途中から尋常小学校に通うように変更させられた。しかし、いじめがひどくまともに学校に通うことすら困難だった。（注3）

同じように迫害の歴史を持つアイヌ民族の文化を知ることウリハッキョの子どもたちが他民族のことに興味を持ったり親近感を感じたりすることは大切な経験であると考え。こ

の授業は、これからもいろいろな形で多文化共生に繋げていくことができるのではないだろうか。子どもたちは、経験したアイヌ文化について感想を絵と文で書いていた。生き生きとした授業がよみがえってくるようだった。

2年生もまた同じ冊子「アイヌってなあに」を使って担任と続きの学習をしたという。

この授業の計画時には、若い担任たちもアイヌについての知識が全くなく不安がっていたが、授業が始まるとマタンプシ（鉢巻き）やアットウシ（服）を身に付け、アイヌ文化に率先して馴染んでいた。そういう態度が子どもたちにも伝わり、ウリマルとアイヌ語のあいさつっこを進んでやることができた。

2. 担任との教材研究が進み、授業を一緒に考えることができるようになった一例

—2018年度 第5回日朝教育研究会 自然体験を基にした授業「食べられるどんぐり」—

(1) 授業の構想について

子どもたちが前回の春の自然探検で体験活動からの気づきをもとに詩を書くという授業に興味をもって意欲的に参加していたので、季節が変わっても秋の自然探検から生活の知恵を学んでいけるように、学校の裏庭にたくさん落ちているマテバシイを活用した。

(2) 授業のねらい

どんぐりから実を取り出して食べられることを体験し、五感を働かせてどんぐりの様子を観察したり食感を楽しんだりする。

(3) 授業の計画

1) 「どんぐりたんけんたい」になって 1年生4名・2年生4名の合同授業

①学校の周りのどんぐり拾い・1時間 ②何個拾えたかな？量体験（算数）・1時間

2) 食べられるどんぐり—かたい木の実にちょうせん！

③どんぐりの食べ方（本時）・・・1時間 ④くさい実やいいにおいの実・・・1時間

3) まとめ ⑤どんぐりの食べ方を冊子に書き込む（日本語）・・・1時間

(4) 本時の流れ

表2

①かたい木の実の紹介	くるみわり人形の紹介	5分
②どんぐりの食べ方について話し合い	大昔の人は毎日食べていた！縄文食の話 朝鮮の人は工夫して今でも食べている 食材「ム」	5分
③どうやって実を取り出すか？ちょうせん！	から割りに使う道具は？ トンカチでたく 飛び跳ねに注意！ 取り出せた実をよく見よう ちょっとかじってみよう 生ではおいしく食べられないよ	10分
	どんぐりをおいしく食べられるようにしてみよう	
④おいしく食べよう	かんたんな食べ方を紹介するよ 1年生 どんぐりせんべい 細かく砕いてせんべいにする ★C先生が指導	20分

ホットプレートの上で焼く 固めるための工夫は？ 水を加えてみる？
焼いたせんべいを冷ましてから食べる 保護者も安全面を見守りながら参加
2年生 どんぐりだんご 白玉だんごをつくった経験を生かして作ろう
細かく砕いて鍋でゆでる ガスコンロ使用 ★M先生が指導
ゆでている間に団子の粉をこねる
ゆで上がったどんぐりを粉に混ぜて団子を作る
団子がゆであがったら皿に盛り、味見をする
⑤どんぐりの味交流会 気づきの発表 五感を使って発見したことは？ 5分
かたい木の実を食べられるように工夫しているものは、ほかにもあるかな？

(5) 授業の成果と課題

45分以内で行うため、発達段階を考慮して料理の内容を学年別にしてみた。そのために担任が教材研究として作る過程を私と一緒に練習した。これが一番大事だった。

もっと家庭でもやってみたいという意欲を持続させるために参観している保護者にも参加して一緒に体験してもらった。日本のスーパーではどんぐりを食材として売っているところはないと思うが、朝鮮には今でも「ム」という食材があり、国内の韓国食品のスーパーでも売っている。子どもたちが自然を活かした食材調べをしたいという意欲を持ったり家庭でも親子で料理してみたりすることがあると良いのではないだろうか。

3. 五感を使ったさまざまな植物の自然観察の一例

—2021年度第6回日朝教育研究会 1. 2年生生活科の授業報告 秋のしぜんたんけんたい—

(1) 授業の構想について

日本の小学校の生活科では、四季のある季節の自然物に触れ、自然への興味関心を育てる学習が行われているが、ウリハッキョでは生活科がなく3年生から理科と社会科の学習が始まる。生活科に相当する内容は、主に学級活動と他の教科の中で触れるという学び方であるようだ。そこで低学年のうちにこの二つの教科を合科的に学習することは、季節の事物や暮らしを関連的に学べる良さがあると考え、一緒に授業を構想してきた。

(2) 授業のねらい

◎秋の自然物を集めてその特徴に気づいたり、それを使って詩を作ったりする活動などを楽しむことができる。

○秋の事物が暮らしの中にどのように活かされているのかに興味を持ったり、気づいたりすることができる。

(3) 授業の計画

- 1) 学校内外の自然物を観察して興味のあるものを集める ……前時まで
 - 2) 「のはらうた」詩集を読み、擬人化した詩の表現に触れる ……日本語
 - 3) 集めた自然物を手に取り五感を使って観察したことを詩に表現する ……本時
 - 4) 秋の植物の特徴を楽しみながら生活とのかかわりを考える ……次時
- ① ススキ お月見 ② 秋の七草 ③ 朝鮮にある秋の行事 チュソク

5) サツマイモの芋ほり体験 ⇒芋ほりの絵

・・・図工の時間

(4) 本時の流れ

表3

学 習 活 動	教師の支援◇ 考察◎
<p>1. T: 題名は何だろう? C1: まっかだな ◇ユーチューブに合わせて歌おう T: いいね! 本当は「まっかな○○」 季節を表す言葉が入るよ C: あき! T: そうだね! 歌詞の中にどんな秋があった? C: 紅葉・つた・おみやのとりい・まっかなほつぺたのきみとほく T: すごい! いろんな秋が見つけれられたね! 2. 集めた秋の草花を観察するよ ★自分が見つけたものを教えて! C: 赤い葉っぱや黄色い葉っぱ・ドングリ・イチヨウの緑色の葉っぱ・赤い実 T: 赤い実は、千両と万両があるよ C2: 天狗のうちわ ★先生が紹介したもの ①ススキ C: ふわふわ ほおにも当ててみる ②モミジパフウの葉と実 ③～⑥ 省略 ⑦ヘクソカズラ : 茶色い実だ! T: きれいだけど名前がヘクソカズラだよ 実を一つ潰してごらん。 C: へーッ! くさい! と一斉に鼻をつまむ ⑧カリン T: 気を取り直してこの大きな臭いをかいでみて C: 甘いにおい ⑨ヨモギ T: においをかいで! C: におい T: 手でもんでにおいをかいで! C: ああ、少しいいにおいの仲間(後略) T: この葉っぱでよもぎだんごが作れるよ。 3. 五感を使って表現してみよう! T1: 子ども達のつぶやきや植物名などを黒板に書き留める 4. オアシスに気に入った植物を入れてアレンジメントを作ってみよう T: いろいろあったけど気に入ったのを持って行ってオアシスにさしてみよう! さしながら気付いたことを教えて! T: 感じたことを「のはらうた」に表そう 「のはらうた」の詩の表現を紹介する(注4)</p>	<p>◎日本の学校でよく歌われる「まっかな秋」を歌い歌詞の言葉と音楽から秋の情景を想像しようとしたが、歌を知らなかった。 ◎歌詞のカラスウリは実物を見せたかった ◎この歌詞は、その後廊下に掲示してあり他学年の児童も観て歌っているという。 ◎子どもたちが見つけたものを取り上げ、生活面から話題にする。 ◇C2が学習に参加するように担任がずっと支援して発表させた。 ◎一人だけ大きなヤツデを持っていて乾燥した葉っぱを見せてくれた。褒められたことにより学習に集中していた。 ◎手ざわりなどで綿毛の存在を確認できた T: 何と似ている? C: タンポポ! ◎モミジの大形版ですぐモミジの仲間とわかった。しかしその実は、似ても似つかないどげのある黒い実だった。 ◎リースに使えるそうなきれいなつる性の実だが、なぜか臭い実だった。なぜ臭いのか考えさせたいところ。 ◎臭い実の後、いい匂いのする実を紹介。 T: いい実なのでど飴が作れるんだよ ◎ヨモギのにおいは、言語表現しにくい。このように言語表現しにくいものを嗅覚で感じ取らせて学ぶことに意味がある。 お店で売ってる草餅もこれから作るよ。 ◇T2・T3: 表現しにくいそうな子への支援色や形・手ざわり・においなどの特徴を見つけさせる ◇子どもたちが発見したことは、黒板に書き留めた ◇お気に入りとは? 口頭表現で見つけたことを伝えさせた。それを基に詩に表現化させるようにした ◎詩の作り方はこんなふうに簡単でいいことを伝えた。この短詩が手本となり自分の気持ちを表現する活動にスムーズに入ることができた。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>どんぐり こねずみしゅん どんぐりが ほとぼろり やぶのなか ころころり のねずみが ちろちろり おいしいぞ かりころり</p> </div>	

T：オアシスを作りながら感じたことをワークシートに書き入れよう。

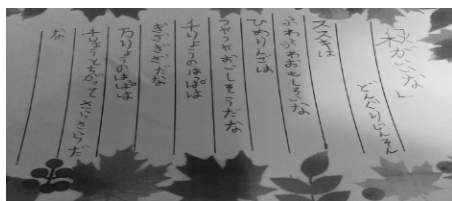


写真1 詩の清書



写真2 秋の自然物を手に取って調べる様子

子どもたちの作ったのはらうた（一部抜粋）

<p>赤いあき さらさら さらん すすきは さらさら くすぐったい いんばちえんす きれいなはなびら 赤くてかわいい ちいさなからだ</p>	<p>あきはさむい どんぐりぼうや とうがらしは なまでたべると からい もみじばふうは とげとげだ すすきは ふわふわだ</p>	<p>ひかる くわがたそん すすきは ふわふわ ゆるるなあ とげとげ もちもち とうがらし からそう みどりもからそう あかもからそう</p>	<p>さめせいちゃんのあき さめせいちゃん てんぐのはっぱ でかいぜい とうがらし 死ぬほどからい すすきは ふわふわ ぜらにうむは くさいぜい</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校からは毎年お礼の文集を頂き、その中に授業の様子の写真と詩の清書や子どもたちからの手紙が入っていた。

(5) 授業の成果と課題

まずこの自然観察から詩などの表現に繋げていく授業は、何回かやっている中で短い時間でも内容豊かに行うことができると分かってきた。子どもたちが校内探検して集めた自然物からも生活と関連した学びができ、また授業者が校外から持ち込んだものでも自然物の異同弁別ができ、大いに興味関心をかき立てることが分かった。

オアシスに活けた草花はその後も水を取り替え、大切に飾っているという。そして「また春探しがやりたい」と次の季節でもやろうという気持ちを持っていた。

次に子どもたちが集めてきた紅葉した葉っぱは、みな桜の葉だった。春、桜が散った後に出てきた緑の葉っぱが秋に赤や黄色に変わったことにはまだ気づいていないようだった。ここに生活科で自然物の変化に触れることの意味があると考える。

三つ目に五感を使った調べ学習として「くさい実」や「いいにおいのする実」というおおいに着目させた方法についてである。

生活科の学習でも五感を使った学習の意義はよく言われるが、実際にどのようにすればいいのか具体的に調べることができた。

ここでは手触りからにおいを感じさせていくものとしてヨモギを取り上げた。においをかいだだけでは表現しにくいものを手でもんでからもう一度においをかぐと、ヨモギ独特においを強く感じる事ができた。この学び方こそ五感を十分に働かせた学び方であると気付いた。そしてお店で売っている草色の団子や餅との関連に気付き、ヨモギは草餅として食べ

られている身近な食用植物であることを一緒に確認することができた。

またある子は、センリョウとマンリョウの違いについて学んだことから家に帰ってマンリョウがあったので、センリョウとの違いを家族に伝えた。この子は、詩にも「葉っぱが違う」と書いており、似ているものをよく見て違いに気付くことができていた。

課題として毎回のことなのだが、授業の内容がつい盛りだくさんになってしまい、最後が駆け足になってしまうことが多い。しかしウリハッキョで事後指導をしっかり行い子どもたちが学んだことを文集や手紙、写真などで構成したアルバムにして送ってくれるので、そこから分析することができた。

担任の先生方は、授業後の話し合いで「子どもたちが興味を持って取り組むことができた。以前、他の教材で詩を書いた時よりどの子もスムーズに詩を書くことができた。そして違う季節でもこの学習をやることができるとわかった。」と話した。

今後は毎年1回の交流会での学びを継続的なものにしていく授業方法を更に精選していけば年間を通した自然観察と学びが可能になると考える。また「朝鮮の季節的な行事を調べる学習も取り入れたい」という意見がでた。

4. 朝鮮の年中行事を教えてほしい 生まれてから1歳までの行事を学ぶ

—2022年度第7回日朝教育研究会の実践「ムロンムロクチャラーすくすく育て—」

千葉ウリハッキョ初級部1年～3年の授業報告

(1) 授業の構想について

これまで日本の小学校での授業内容を基にした生活科の授業を行ってきたが、今回は朝鮮の年中行事を取り上げ、そこに父母や祖父母たちがどんな願いや喜びを込めているのかを調べる学習にしたいと思った。つまり日本の教師がウリハッキョで朝鮮の文化を学ぶというスタンスで実践研究したいと考えたのである。私自身、ウリハッキョの保護者と親しく言葉を交わすということがほとんどなかったので、今回はまず朝鮮の行事についての情報をできるだけ家庭から集め、子どもたちが自分のルーツに繋がる生活の中の行事を調べることができるようにし、そこに父母や祖父母の声を反映させることができたらと考えた。

子どもの誕生を祝い、その成長を願う家族行事は世界共通であると思われるが、朝鮮ではどのような行事が行われているのだろうか。なぜ豪華な場づくりから宮廷料理のようなご馳走、そして結婚式のような衣裳、親戚を呼ぶなどのチュサ(祭祀)を行うのか。その背景には、どんな気持ちがあるのだろうか。

日本の人々が在日コリアンの家族行事を知り、朝鮮文化を理解することは、差別やヘイトをなくす一助にもなるのではないかと、まず知ることから始まるという思いがある。

本授業は、保護者にも協力してもらい、子どもの誕生秘話や成長を願う気持ちなどを語ってもらう。それを聞いて子どもたちが考えたことを発表したり、短文に書いたりしてまとめていく学習にしたい。そしてウリハッキョの先生方や子どもたちとの交流を通して、在日コリアンの人々が自分たちの文化を大切に継承する根本にある歴史や伝統に対する文化理解の研究を少しずつ進めていきたいと考える。

(2) 授業のねらいについて



- ◎子どもの成長を願う年中行事を調べ、どんな願いが込められているのかを知ることができる。
- 父母や祖父母の声を聴き、子どもの成長を願う気持ちを想像することができる。
- 日本の年中行事とも比べ、共通することや違いを知ることができる。

(3) 学習の計画

- 1) 保護者へのアンケートを基に行事の柱を決定する・・・授業外
- 2) 父母や祖父母の声を聴くことができたらその内容を授業で活用する・・・授業外
- 3) その後の話し合いで1～3年まで合同で行うことに決まる・・・授業外
 - 1年生は入学時の喜びや家族の気持ちを考える
 - 2年生は丁度この授業に入るので内容的によい
 - 3年生は歴史学習に繋げられるような内容にする
- 4) みんなで共有したいできごとをピックアップして学ぶ・・・研究会の本時
感想やお礼を書いて家族などに届ける・・・次の時間に各学年で行う
- 5) 日本の行事とも比べその意味や大切さを知る・・・各学年で手紙を書く

(4) 本時の流れ

表 4

時	学 習 内 容 と 児 童 の 活 動	◇教師の支援
問題把握	1. 目あてをつかむ	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みんなが生まれてからどんなことがあったかおうちの人にきいてみよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ○教師が自分の子どもを産んだ時のことや日本の行事の話をする <ul style="list-style-type: none"> ・大きな赤ちゃんで産むのが大変 ・七五三のお祝いで神社参り ・写真 ○保護者に出産時の話やお祝いごとの話をしてもらい、お話の中から知りたいことや不思議に思ったことなどを出していこう <ul style="list-style-type: none"> ・おうちの方がアンケートに書いてくれたことを紹介する 	◇保護者がいない場合は担任がかわりに話す
資料を基に話し合い	2. お話の中に生まれた時から共通するお祝いごとがあったね	
	(1) 100日目のお祝い ベギルチャンチ <ul style="list-style-type: none"> ① (2年SU)・ベギルチャンチのごちそうの話 <ul style="list-style-type: none"> タイの姿焼き・わかめスープ・お赤飯・ナムル盛り・シルトクチョン ・生まれて初めてのパジ・チョコグリを着てぐずってしまったわけ 	
		
	写真3 祖父母とベギルチャンチ <ul style="list-style-type: none"> ② (1年KI 母) 赤ちゃんはよだれが… <ul style="list-style-type: none"> ・まだ食べられないのにすごいご馳走が並んでいるよ ③ (1年SM) 3人姉姉の末っ子でもう最後のお祝いだと思って… <ul style="list-style-type: none"> ・きょうだいみんなに同じお祝いをするんだ 	写真4 姉たちも正装でトルチャンチ

(2) 1さいの誕生祝い トルチャンチ→トル (1歳) +チャビ (つかむ)

- ④ (2年KSのオモニ) 1歳のパーズデー会 ・日本も同じだね
- ⑤ (1年KKの母F) 兄姉の時 一升餅を背負わせたら…
 - ・3人目だとその子に合わせた工夫が出来るんだね
- ⑥ (2年RMの父) トルチャンチが行われるようになったわけ



5



6



7



8



9

写真5・6 トルチャンチの正装 写真7トルチャビ 写真8・9 選び取りの様子

- ・どの家も朝鮮服・韓服を着せて祝ったんだね
- ・今ではこんなに置くものがある

1歳のお祝いのメインイベント トルチャビにはどんなものを置いたの?

- ⑦ (3年SJの母RS) 米・本・お金・筆・糸・弓矢
 - ⑧ (3年KUの父) 小判・馬牌・筆・千字文・五方紙・福袋・木綿糸
 - ・それぞれの家によってちがうものがあるね
 - アンケートで教えてもらったものを出して意味を考える。
- 米・本・お金・筆・糸・弓矢・小判・馬牌・千字文・五方紙・福袋
- ・子どもがどれを選ぶかを見て楽しむ行事なんだね
 - ・みんなはどれを取ったのかな?

⑨ (2年KY) KYは筆を取った 妹や弟は?

3. おうちの人たちはどんな願いを込めていたのかな?

⑩ (1年OS) 毎年喜んでくれることをしている。日本の文化と同じ。

- 4. ほかにどんな家族の行事があるかな? (略)
- 5. 生まれてからの家族のいろいろな行事を知ってどんなことを思ったか 感想を話してみよう。後で短い手紙に書いてみよう。
- 6. おうちの人たちの感想も聞いてみよう

⑭ (2年RM母) 在日3世である私の経験と願い

- ・多文化を理解し、いろいろな経験をしてもらいたい

ま
と
め

資料1. アンケートの内容から授業で取り上げたもの (常体で掲載)

- ①生まれて初めてバジ・チョゴリを着て食い初めをする。着せられたチョゴリが少しごわつて終始ぐずっていた。
- ②生後100日を祝う。赤ちゃんは何もできないのでチョゴリを着て食卓を飾り写真を撮るだけ…
離乳食も始まっていないのに美味しそうなおかずを目の前に並べられてジーッと見つめ、よだれが
- ③3人の兄姉の末っ子でもう最後のお祝い行事になると思い100日や1歳の行事を気持ち盛大にして家族写真も全員で着飾って撮ったが、4人目が去年生まれ先日1歳のお祝いをしたところ (笑)
4人の子宝に恵まれ幸せ。3男の末っ子の100日も1歳のお祝いも無事終え今回こそ最後になった。
- ④トルチャンチ→チマ・チョゴリ、バジ・チョゴリを着て朝鮮料理を作る。トルチャビをする。
- ⑤兄、姉のトルチャンチの時に一升餅を背負わせたらびっくり返ったり転んで泣いたり大変だったのでハーフサイズに (笑) トルチャビでは、兄はラッパ、姉はお金! INは電卓を選んだ。
- ⑥昔は乳幼児の死亡率が高かった為、子どもが無事に成長することを祈り、初誕生日を迎えたことを盛大にお祝いすることからトルチャンチが行われるようになったそう。我が家でも親族、親しい友人を招待し盛大にお祝いした。チマ・チョゴリを着せ、お祝いのおもちゃ、果物を用意した。子どもの未来を占うトルチャビも行った。・お金 (金持ち)・本や筆 (学者・先生)・糸 (長生き)・栗 (子孫繁栄) これらを並べ子どもが何を取るか見て皆で楽しんだ。

- ⑦うちの子がつかんだものはお札ではなく硬貨だった。将来は小金持ち？父方母方両家の親族が集まり皆で成長を祝った。トルチャンチ・米→食べる事に困らない ・本→学者、インテリ ・お金→お金持ち ・筆→文人 ・糸→長生きする ・弓矢→武将
- ⑧トルチャンチ 1歳の特別なお祝い 小判、馬牌、筆、千字文、五方紙、福袋、木綿糸を用意し、どれを取るか。兄は五方紙、姉は小判を取った。
- ⑨トルチャンチ 子の1歳の誕生日を祝う。チョゴリを着て写真を撮る。壁に幕を垂らしご馳走や装飾が飾られたテーブルの後ろに座る。トルチャビをして何をつかみ取るかで将来を占う。その後みんなでご飯を食べる。YRはトルチャビで筆を取った。研究者や学者になるという意味。妹はお金、弟はボールをそれぞれに取った。
- ⑩誕生会、忘年会など 毎年喜んでくれることをしている。日本の文化と同じ。
- ⑪60歳還暦 祖父母の還暦はしっかり祝う。
- ⑫毎年の行事 ・おじいちゃんの法事 亡くなった先祖に食事を用意して孝行をする。親族がたくさん集まってとても賑やか、ご飯も美味しかった。
・草刈り（春と夏）お墓の草を刈ってきれいにする。親族がほとんど集まりチキンを食べ楽しんだ。
- ⑬旧正月 先祖へのあいさつ、目上の方々に新年のあいさつをして新しい年を始める。お年玉をたくさんもらったけどオンマ（お母さん）に全部取られてしまった。
- ⑭親である私は在日3世。日本で生活する中で両親にトルチャンチはもちろん、日本の七五三で着物を着せてもらう経験もした。ウリハッキョに通う子どもたちにも多文化を理解し、いろいろな経験をしてもらいたいと思っている。

(5) 授業の成果と課題

授業当日コロナ禍のために1年生が学級閉鎖になってしまい、2年生5名と3年生1名の6名だけになってしまったが、2、3年の担任が臨機応変の対応をしてくれた。

まずこの授業の一番の成果は、14名全員の保護者が提供してくれた写真や資料から在日コリアンの人々が日本においても朝鮮の伝統を受け継いで行こうとしていることが分かったことだ。1世の時代には伝統的なやり方で原則的に行うことが求められていたが、保護者たちの3世の時代になるとそれぞれの家庭のやり方で行われるようになってきている。ご馳走には日本の食文化も混在している。

県内各地から通っているのも保護者も加わって一緒に語り合う授業方法は、お互いをよく知るためにも良かった。

朝鮮のお祝い行事について知ることができたが、教師や子どもたちは日本のお祝い行事、例えば七五三などについても知りたいということが分かったので、次の機会に引き続き、授業化して互いの理解を深めていきたいと考えた。

—2023年度第8回日朝教育研究会の実践「ムロンムロクチャララーすくすく育て—」

千葉ウリハッキョ初級部1年～2年の授業報告

(1) 授業の構想と課題について

毎年11月に行われていた研究会が学校行事の都合で2023年は6月に変更された。6月は、1年生が入学してまだ2カ月しかたっていないので、どんな授業をやろうか考えた。昨年学級閉鎖のため、この授業ができなかった1年担任と産休中で同じく授業ができなかった2年担任の二人が希望したのでこの授業を行った。2年担任のC先生は、授業の中で1歳を迎えた自分のお子さんのお祝いの様子を伝えてくれた。

この授業は2年生主体で1年生に紹介するという方法で行うことにした。1年生がお客さ

んにならないようにクイズを入れながら楽しく行う方法を取り入れたのだが、やってみている問題点が明らかになった。

まず2年生は、ウリマルの授業で自分の生い立ちに関する学習をしている。そこで学んだことを日本語で再表現するという学習方法を取ったので、学んだことが更に確実にするという利点があった。だからどの子も自信を持って発表していた。

しかし1年生にとっては、まだ自分の生い立ち調べもしていない段階なので2年生の発表内容は難しく感じたであろう。クイズも1年生がもう少し考える余地のある問題提示を工夫するべきだった。この授業の一番のメインは、トルチャビの場面であった。1年生の子どもたちが発表を聞いて、発表者の子が何をつかんだのか想像できるような提案の仕方が必要だった。その場面が一番楽しく一緒に盛り上がりたところだったので、今回は写真と一緒に実物を用意するなどトルチャビについての知識がなくともイメージが湧くような工夫をして習う楽しみが残ったという点ではよかった部分もある。

Ⅲ.まとめ

8年間にわたっての千葉ウリハッキョでの授業研究の初めは、自分のやってきた日本の授業を紹介したいという気持ちが強かったが、回を重ねるにつれ一緒に教材研究をしたり、授業での役割分担を話し合ったりして、次の構想を考えることもできるようになってきた。つまり一緒に日朝合同の授業を創るという対等な立場に立って考えることができるようになってきたのである。まだまだ朝鮮のことは知らないことばかりであり、子どもたちの名前を覚えるのもやっとである。保護者や子どもたちについても在日コリアンとひとくくりに出れないそれぞれの家庭や生き方、家族の歴史がある。

同じ朝鮮民族の言葉でも韓国とでは少しずつ発音が違うことがあり、また日本の行事や学校で歌う歌については全く知らないということも分かった。

だからこそ日本の学校での学びを伝えるだけでなく、子どもたちの生活に沿った暮らしぶりや習慣、大切にしている考え方などを、実際の暮らしから学び理解し合える学習を創っていきたいと考える。

そして筆者自身がウリハッキョでの授業研究を深めることができるようになってきたのと同時に、朝鮮文化や在日コリアンの人々との交流が深まり、外国で暮らす彼らの抱える問題についての理解も進んできた。

Ⅳ.今後の課題

ヘイトや差別に対して不屈な精神力を持ち、親しくなった人々に礼節を尽くす在日コリアンの人々の人としての振る舞いなどを尊敬する気持ちが生まれ、それが高まってきた。そして美術教育を始め、子どもたちのために一緒にやっていけるものをさまざまに追求してきた。それらの活動については、改めて別稿で書きたいと考えている。

- 注1 「ウリハッキョ」は、私たちの学校を意味する朝鮮語で「在日朝鮮初中級学校」という校名が長いので略称として使用されている。
- 注2 千葉朝鮮学校を支える県民ネットワーク（千葉ハッキョの会）
呼びかけ人堀川久司 E-mail : botakawa57@gmail.com
- 注3 弓野恵子2018『アネサラシネウプソロ：アイヌとして生きた遠山サキ』地湧社
文字を書けない母親の言葉を娘の弓野さんが聞き書きしたもので辛い時代が詳しく語られている。
- 注4 工藤直子『のはらうた 1』童話屋 pp112
- 注5 ベギルチャンチやトルチャンチ、トルチャビなどを、韓国人はベギルジャンチ、トルジャンチ、トルジャビと発音する。ウリハッキョでは、チャンチと発音するので、そのように表記した。

参考文献

- 1 『子どもが主役になる社会科』会誌 第54号 2023年
- 2 梁愛舜「チェーサと在日日本人社会—世代交代と世俗化を中心に—」、『立命館産業社会論集』36-2号、2002年参照
- 3 『歴史教科書在日コリアンの歴史』作成委員会編『歴史教科書在日コリアンの歴史』明石書店 2013